



アシハラガニ

《私が子どもだった頃》 金沢区寺前出身 関 東雄

私は、昭和22年寺前東町（寺前2丁目）で生まれ、子ども時代を過ごしました。私の小さい頃は、乙とも海岸と呼ばれた小柴から平潟湾口まで、松林がきれいな自然の海岸線が残っていて海水浴のメッカでした。現在金沢の花火大会は、毎年8月の最後の土曜日に海の公園で行われますが、当時は平潟湾内で行われていました。大輪の打ち上げ花火の後には、仕掛け花火もあり、お馴染みの金鳥蚊取り線香やナイアガラの滝がエンディングでした。洲崎町の平潟湾沿いの瀬戸神社近くに武蔵屋という和菓子屋さんがありました。酒まんじゅうと八景せんべいが名物でした。八景せんべいは二つ折りの味噌せんべいで、せんべいの一つひとつに八景の焼き印が押されていました。老舗の和菓子屋でしたが今はありません。毎年その武蔵屋の2階に親戚等が集まり、目の前で打ち上げられる花火を見るのが楽しみでした。

私の通っていた文庫小学校の近くに、当時、八景園というホテルがありました。部屋の一部は、横須賀米軍の高級将校の家族の宿舎にもなっており、私たちは時々敷地内に侵入しては、米人の子ども達と喧嘩をしてました。



アシハラガニ（葦原蟹）

学名：*Helice tridens*

体長：甲幅 30mmほど

分布：東アジア（中国東岸、香港、朝鮮半島、日本）日本国内では本州以南

河口干潟のアシ原付近に棲み、干潟に穴を掘って生活している。打ち上がった魚やアシなどの葉っぱを食べる雑食性で、時には他のカニを襲って食べるなど獰猛な一面も。鋏が大きく、丸っこいボディはなかなかのデザインだと筆者は思う。残念なことに侍従川では激減している。

解説：山田陽治

かれら 彼等はすぐにナイフを振り回すので、すぐに逃げました。また、ゴルフの練習場があり、敷地外しきちがいに落ちているボールを拾って届けると1球に付き、いくらかの小遣い稼こづかぎにもなりました。この八景園は、もともと大橋新太郎おおはしの別荘で後に西武鉄道が大遊園地構想のためだいうえんちこうそうに買い取りました。大橋新太郎は今の共同印刷きょうどんの前身である博文館ぶんぶんのオーナーで泥亀新田でいきしんでんを買い取り金沢文庫かねざわぶんこの再建にも貢献した人物で、金沢を語るときに欠かせない有力者の一人です。大金持ちのダイヤモンドにつられて恋人の貫一くわんいちを裏切り、それを知った貫一くわんいちに熱海の海岸の松ノ木の下でお宮おみやが足蹴あしげにされる尾崎紅葉おざきこうようの金色夜叉こんじきやしやの話は有名ですが、その大金持ちとお宮のモデルが、大橋新太郎とその妻です。

おっ 乙とも海岸が埋め立てられる前の話ですが、40年程昔の夏の夜に海の中をアセチレンランプを持った人たちで大賑わいになった時期がありました。カーバイドに水を入れて光らせるアセチレンランプは、懐中電灯より遥かに明るくて縁日の屋台等でも使用していたのです。毎晩のようにモリをタモ竿ざおの後ろにつけた道具と、ランプを持って海の中を夜中まで歩き回っていました。ワタリガニ、カレイ、芝エビなどその日によって収穫できるものが違います。芝エビが獲れる頃は、私たち家族が全員で参加しました。ランプの光で目が赤く光るエビを追いかけると海面に浮上してジャンプします。そのタイミングでタモを上からかぶせて捕まえるのですが、エビを追いかける人たちの声で海は大騒ぎでした。私の学生時代は、小柴の底引き網でタイラガイやホタテ、ミル貝などが捕れていました。それらの貝は、江戸前えどまえの高級貝として市場には出さず、直接料亭りょうていに卸していたそうです。漁港には、東京の高級料亭からの仕立て便のトラックが毎朝列をなしていたそうです。運転手は自前の出刃包丁でばぼうちようを持参して、漁港で手に入る新鮮な魚介類しんせんぎょかいりいをその場で刺身にして食べていたということです。シャコもたくさん捕れていたところで、シャコは腐りやすいので船からあげるとその場で茹ゆでていました。

小さい頃は、ホンチ遊びをよくやりました。春先から5月いっぱいの間、マサキやツツジの葉の上によく見かけられるのが、ネコハエトリグモ、通称ホンチです。昭和30年頃、このオスを捕まえて育て戦わせる遊びが横浜南部を中心に大ブームになりました。マッチ箱大で中箱が2つに仕切られ、観察用のガラス板てんぶが添付されていた飼育箱しいくぼこを購こうにゅう入し、エサを与えて大切に育てます。このホンチを飼う箱は、近くの駄菓子屋だがしやに売っていました。小さな板の上に乗せてどちらかが逃げ出すまで戦わせるのですが、前足2本にとうりゅうを二刀流の剣のように振りかざして組合う戦い方かっこうが格好よくて夢中むちゆうになりました。バラの葉にいるバラ



ホンチ

ポンと称するホンチが一番強いと言われ、頭に白い模様がついたカンタは別種のように、すぐに相手を殺してしまつたため反則扱いでした。ホンチとは別に、木の根元等から地中に巣を作るジグモもまた良き遊び相手でした。地上に飛び出ている袋の端を静かに引き上げ、底にいるのを捕まえます。ジグモの戦いは牙を相手の腹に突き刺す殺し合いで、育てる楽しみもなく、あまり人気はありませんでした。



ジグモ

私は、現在は保土ヶ谷に住んでいて、月に何回か実家のある金沢に通う身ですが、この歴史と自然のある金沢が大好きです。金沢の自然と文化によって育てられた子ども時代の楽しい思い出は宝物です。今は平安時代からその名勝がたたえられた金沢八景の面影はなくなりましたが、残された海岸や湾、島、侍従川などの自然や歴史的な史跡は他の町に負けません。これからも金沢の自然や文化を大切に守り育てて、たくさんの楽しい思い出を育んでください。大人になってから、きっとすばらしい財産になりますよ。

おまけ

【机の上のハンティング】

私が京橋の事務所に通っていた頃のお話です。小さな雑居ビルで下の階に焼き鳥屋が入っていることもあり、よくゴキブリがはい回っていました。ある日、仕事をしている机の上の書類近くに、その嫌らしい虫が近づいて来たので払おうとすると、書類の山の上の方に蜘蛛がいて、その虫を狙っていることに気づきました。ハエトリグモのハンティングです。仕事も忘れて、そのハンティングに見入ってしまいました。

体調2センチ程の小さなゴキブリですが、その蜘蛛にとっては数倍の大きさ。距離は獲物の進行方向上部斜め前方約30センチ、相手の前進に合わせて少しずつその距離を詰めていきます。獲物はゆっくり歩きながら警戒のため立ち止まります。ハンターは、相手をうかがいながら、その間5センチになるまでツツと距離を縮めていきます。獲物が通り過ぎたその瞬間、後部から飛びつき牙を刺して、しっかりと獲物を抱え込むとあっという間に引き揚げたのです。その間10分程、ハンティングの邪魔にならないよう身じろぎもできませんでした。目の前の机の上で行われた狩りを体験しました。こんな所にも弱肉強食の厳しい世界があることに驚かされました。

家の中でも、よく蜘蛛を見かけます。でも、その姿形がグロテスクなので嫌いな人って多いですね。ホンチは小さくてかわいいのですが、家の天井などをはっている体長10センチもある通称イエグモ(アシダカグモ)は、大きくて気持ちが悪く嫌われています。所々

に抜け殻が落ちていたり、ほうきなどで叩くと足がとれて残っていたりして……。でも彼らはゴキブリをエサにしている益虫なんです。(人間が勝手に決めた益虫、害虫という言葉は、好きではないのですが……。) 注意して観察してみると身の回りにいる蜘蛛たちも一生懸命生きていることに気づかされます。



アシダカグモ

☆☆ 特別寄稿 ☆☆



街中のゲンジボタルを親子で見る

イラスト：土屋美沙都さん

6月1日、侍従会のメーリングリストに驚くべき情報が、飯村優介さんより発せられました。タイトルは「ゲンジボタル大飛翔」で、本文は『現在、中流エリアで広い範囲ゲンジボタル大飛翔中であります。密度高く、数多く、下流との間に至る広範囲で。活動初期に夢みたような光景。街中でこんなに。』というものでした。これには本当に驚きました。飯村さんの言う活動初期は、今から18年前です。このとき県営住宅前の侍従川で、初めてゲンジボタル1頭を確認しました。このときも本当に驚き、また夢見たことを思い出します。飯村さんたちと、「侍従川が蘇るって、街中でホタル狩りができるようになることだよな。」というようなことを話していました。

侍従川の復活に無上の喜びを感じつつ、侍従会の皆様に感謝しております。

尾上伸一

体験フェスタ in 野島

3月6日(日) 11:00~15:00

【活動報告その1】

記) 山田陽治

3/6は啓蟄にふさわしく暖かな一日だった。そんな日曜日に野島青少年研修センターで『体験フェスタ』(主催(財)横浜市青少年育成協会)が行われました。『よこはま子ども感動体験in野島』(主催 横浜市こども青少年局)も同時開催。

侍従会は、葦船模型とパネル。そして、タッチスネークを出展しました。ヘビはものすごい人気で、いろんな子が興味深そうに触っていました。

会員のミキちゃんが、お父さんと干潟でいろいろ生き物を捕まえてきたので即興展示。

隣の『横浜の水辺と緑を考える子ども会議』のブースでは高校生に魚の解剖を教わって、会員のユージが挑戦!お客さんの前で披露。

『横浜子どもと自然のネットワーク(通称よここ)』では、干物つり(最初は、干物づくり…と勘違いしたが、干物釣りでした(笑))、メダカ捌い、つみれ汁作り(美味かった!）、『海をつくる会』はおなじみタッチプール。海をつくる会の工藤孝浩さんは海の生き物にととても詳しく、さかなくんにいろいろと教えていると聞いて、子供たちは尊敬の眼差しで見っていました。

それから、海藻押し葉の第一人者である野田三千代さんの海藻押し葉教室に呼ばれて、7人で教室に参加。緑藻、褐藻、紅藻…色とりどりの海藻が並び、それを自由にハガキにつけていく。で、できた作品は、後日自分の家のポストへ。楽しみ(^-^)

他にも、ツリークライミング、海苔すき体験やクラフト、サーフィン体験など実にたくさんのブースがありました。

レベルの高いイベントだったので、もっとたくさんの子どもたちに宣伝したかったな~



3月定例クリーンアップ

【活動報告その2】

3月27日(日) 9:00~12:00

於: 朝比奈橋~大道橋~大道東橋

記) 細川一雄

参加者: 相川澄夫、西澤博厚、角田繁、八木場紀元、外川忠志、村田章夫、石塚正夫、成瀬アキコ、石渡博、高木之靖(パタゴニア)、栗原真理(パタゴニア)、山田陽治、細川一雄(計13名)

ようやく暖かくなってきましたが、桜はやっと開花宣言が出たばかりです。昨年は既に桜は大分咲いていましたが、今年は3月に入ってからからの低温のため、桜の開花が例年並みになりました。

まだ、草も生えてきていませんので今回もゴミ拾いを中心に作業を行いました。今回はベイサイドのパタゴニアから高木さんと栗原さんの若い二人が会の活動に賛同して参加してくれました。草刈り班の若返りが期待できます。

今回も大道東橋から上流に向かうチームと朝比奈橋(三信住宅入り口)から下流に向かうチームの2つに分かれて作業を行いました。また、OBの徳丸さんが鹿児島からお孫さんを連れて参加してくれました。

大道橋上流の横浜屋駐車場の横の川に捨てられていた自転車や、車のホイール、傘などの大物のゴミを回収しました。



トピックス

- ◎3/27(日) 第26回横浜の水辺と緑を考える子ども会議(会場 金沢自然公園のはな館) 東日本大地震の影響で延期(開催未定)
- ◎4/8(金) 『モリゾー・キッコロ森へいこうよ!』(NHK 教育) 野島海岸で撮影
…5/7(土) 放映、再5/12(木)
- ◎4/23(土)、5/29(日) 葦船乗船会 雨天のため中止。
- ◎4/30(土)、5/28(土) パタゴニア・ベイサイド・アウトレットとの協働イベント
東日本大地震の影響で中止。
- ◎5/17(火) 大道小学校侍従川清掃…長野副会長、村田、山田参加

春を味わおう！

【活動報告その3】

～春の草摘みと野草料理パーティー～

4月10日（日） 9：00～

記）成島みゆき

参加者：幼児1名、小学生10名、中高生10名、大学生6名、大人13名

毎年恒例となっている野草パーティーが行われました。震災から約1カ月、なかなか落ち着かない日々の中、40名もの参加者が集まりました。会員以外に、スローフード横浜や、パタゴニア・ベイサイド・アウトレットの方々にも参加いただきました。

まずはみんなで草摘みです！山田さんから、おいしい野草、食べられない野草の見分け方を教えてもらいました。見た目だけではなく、匂いや手触りも見分けるヒントになるんですね。毎年参加して慣れている人も多いので、どんどん野草が集まっていきます。カントウタンポポ、ツリガネニンジン、ヨモギ、アザミの仲間、セリ、ノビル、ユキノシタ、フキ、クレソンなどで袋はいっぱい。子供たちが「去年食べたユキノシタが美味しかったから、たくさん摘むんだ！」「ノビルは周りをちょっと掘ると綺麗に抜けるよ」と教えてくれ、毎年やってきたことが身についているんだなあと感じました。

ちとせ園に移動して野草パーティーの開始です。笹の葉のお茶、ノビルの浅漬けと酢味噌和え、セリキムチ、野草の天ぷら（精鋭部隊が摘んできたタラの芽も天ぷらに…）、ヨモギ団子、廣瀬さんが持ってきて下さったアミガサタケとクレソンを使ったペロンチーノ、セリとノビルの水餃子など、盛りだくさんのメニューでした！スローフード横浜の江川さん、お母さん方、寺尾さん、山田さんたちが自慢の野草メニューをふるまってくれ、みんなでとても美味しく頂きました。我先にと料理を手伝っていた子供たちも、おなかいっぱいになったのか途



中からは川に生きものを捕りに……。

天候にも恵まれて、春の自然とおいしい野草を満喫できた1日となりました。



4月定例クリーンアップ

【活動報告その4】

4月24日(日) 9:00~12:00

於：朝比奈インターチェンジ下~朝比奈橋~第二山王橋 記) 細川一雄

参加者：長野政治、長橋輝明、西澤博厚、角田繁、八木場紀元、村田章夫、石渡博、高橋のりみ、寺尾勝廣、高木之靖(パタゴニア)、細川一雄(計11名)

桜もすっかり葉桜となり、草の成長が早くなってきました。先月倉庫の扉を壊されてから、盗まれては危険だという事で、会長宅に預けてあった草刈りカマを久しぶりに持って作業を開始しました。



今年度最初の作業は、侍従川の源流付近の草刈りとゴミ拾いを行いました。金の橋を越え、朝比奈切り通し入り口の下から川に下りて多少茂り始めた草を刈りながら、上流と下流に分かれて作業を行いました。



上流の突きあたりは暗渠になっていてそこから先へは進めません。暗渠の横に大量の廃棄物(携帯用ガスコンロ・ボンベ、カーステレオ、ラジカセ等)が捨てられていました。多分、崖の上から廃棄されたようです。予備に持っていった2つのゴミ袋も一杯になってしまいましたので、残念ながら全てのゴミを回収できずに戻りました。また、他のメンバーは金属バットやエンジン等いつもとは違った重量物のゴミを拾い、県営住宅跡地まで非常に辛い思いをして運びました。このごろは、タバコの吸い殻や、お菓子のビニール以外の大きな廃棄物が目立ってきています。通りがかりに捨てるのではなく、計画的に川に捨てに来ていると思われます。

全員がゴミ袋を一杯にして、作業を12時に終了し、喉を潤おして解散しました。

潮干狩り

5月8日（日） 9：00～ 於：野島公園

【活動報告その5】

記）瀧本宏昭

5月8日野島公園において、潮干狩りイベントが行われました。天候にも恵まれ、参加者のご家族の面々も終始満足そうな表情でした。

今回のイベントでは、アサリやバカガイ・カガミガイ・マテガイなどの潮干狩りの他に、ヒライソガニやマメコブシガニ・魚の稚魚・ヤドカリ類など多くの生き物たちを採取しました。参加者の中には、終始アサリなどの二枚貝獲りに夢中になって入れ物をいっぱいにしていく人もいれば、石をひっくり返してカニとりに専念している人もいて様々でした。そんな中で子ども達の様子をみていると、前から侍従会に参加をしている小学生の面々が、今回が初参加の年下の子ども達に生き物の獲り方や名前を教えているという、微笑ましい光景も見受けられました。

そんな生き物獲りの中で、山田さんによる貝類をつかった実験も行われました。実験は、アサリとバカガイ・カガミガイの砂もぐり競争、アサリの水質浄化実験などが行われ、子ども達は終始目を輝かせていました。

潮干狩りの後は、この日に獲った二枚貝を実際に食べてみました。バターで焼いたアサリ・バカガイ・カガミガイの食べ比べを行いました。一番おいしいと評価が高かったのはバカガイでした。子ども達が、美味しいと言ってたくさんしゃぶりついていたのがとても印象に残っています。その後、このイベントは解散となり、皆さん満足そうな顔で帰っていきました。

このイベントには、侍従会のイベントに初参加のご家族もいらっしゃいましたが、いつの間にか馴染んでおり、改めて自然体験の力の一面を見たような気がしました。私自身も、とても楽しませていただいた1日でした。



5月定例クリーンアップ

【活動報告その6】

5月22日(日) 9:00~12:00

於：朝比奈橋(三信住宅入口)~里野橋~大道橋 記) 細川一雄

参加者：長橋輝明、西澤博厚、角田繁、八木場紀元、外川忠志、高木之靖(パタゴニア)、
細川一雄(計7名)

入梅まであとわずか、気温と湿度は高いが風も強いので作業をするに多少は楽な気候です。今月は参加者7名と大分戦力はダウンしましたが、先月に続き朝比奈橋の下から草刈り作業を始めました。



今年度から、横浜市との契約は「年2回の草刈りと12回の清掃」から「年12回の清掃のみ」になりました。草刈りは、あくまでも自分たちのボランティア作業の一部となり、ノルマ的なものがなくなりましたので、可能な範囲で作業をすれば良くなり大分気分も楽です。



川に下りると地藏橋あたりの水の中に小さな魚(チチブ?)が沢山泳いでいました。兩岸の草や垂れ下がった枝などを刈り取り10時30分に自動販売機で飲み物を買って一休み、さすがに汗が滲み出ます。橋の下で休んでいると、1.2m程の青大将が現れて皆ドッキリ。しばらく川の中を泳いで上流に消えました。



休憩後、里野橋まで草刈りを行い、それから大道橋までゴミを拾いながら川を下りました。横浜屋駐車場から地上に上がり、飲み物を買込み、ちとせ園で喉を潤おし体を休めます。



また、先週、県営住宅裏の川の中に廃棄されていた自転車を引上げ、大道交番に持って行ったところ、住民から県営住宅跡地の側溝に捨てられているとの通報があり、調査したら県営住宅の住民が引っ越すときに捨てた物なので、そのまま廃棄してくださいとの事でした。また、作業終了前に、数人で大道橋からちとせ園に向かうまでの間のゴミを拾っていただきました。



だより

「大道村づくり」が始まって1年が過ぎました。保護者・地域の皆さま、侍従会の皆さまのお力添えで、池や田んぼまわりの環境がとてもきれいになりました。週末には、散歩や写生に訪れる地域の方の姿も見られるようになりました。

さて「希望の井戸」は、現在40mの深さを土曜日、日曜日を中心に掘り続けています。防災の対応も含めて、太い氷脈に達するまで(よい水が湧くまで)活動を続け、村の維持管理も行います。今後は、コミュニティー2階にある歴史資料館の保全活動や工作教室などの面でも、地域貢献ができるようにと企画を進めていきます。

3月には、大道小学校PTAが「かながわ地球環境賞」を受賞しました。この賞は、長年にわたる侍従川の清掃活動やトンボ池の保全活動の取り組みに対するの評価を頂いたものです。

こういった連携がいつまでも続いていくとよいです。



イラストレーター土屋美沙都さん(大道小卒業生)のトンボ池の作品です。

侍従川生き物図鑑 No.12

～ アゲハ ～

(アゲハチョウ科)

学名：Papilio xuthus

前翅長：35～60ミリ

分布：中流域から上流域

通称はナミアゲハと呼ばれ、春から秋にかけて中流域の住宅地の花壇や学校の校庭などで見かけるお馴染みのアゲハチョウです。後ろ羽の先が尖っているので、



横浜市金沢区にて

これをツバメの尾羽に見立てて英名では「swallow tail」などと呼ばれたりします。

成虫は主にツツジ、ヤブガラシ、ヒガンバナ、ランタナなどの花を訪れ蜜を吸い、幼虫は様々なミカン科の植物の葉を食べて育ちます。

琉球生き物紀行 ～美ら島の生き物たち～

～ リュウキュウコノハズク ～

(フクロウ科)

学名：Otus elegans

体長：22センチ

分布：琉球列島、対馬

沖縄本島北部では普通に見られる小型のフクロウです。人口の少ない集落では夜になると、樹上や、ときには電信柱の上などで「コホーッ、コホーッ、コホーッ」としきりに鳴いている姿が観察できます。巣は主に樹に開いた洞などに作りますが、ときにはシロアリの蟻塚に作ることもあるそうです。



沖縄県国頭村にて

餌は昆虫や小型の爬虫類で電灯に飛来した昆虫を地面へ降り立って捕らえます。主にクワガタは好物のようで、腹の柔らかい部分だけ器用に食べ、硬い頭は残していきます。街灯を見て廻るクワガタ採集家には少し厄介がられている鳥です。

監修：熊井（沖縄在住）

朝夷奈の森通信 ～風の忍者より～

飯村優介

梅雨は動植物の活動も盛んになり、種類もとても多いです。まだまだ美味しいものが出てきます。

シオテ

ユリ科の美味な山菜。里山の開けた場所、カヤ場や野原、山道わきの草地。他の野草より遅く5月下旬ごろから伸びてくる。アスパラガスのような味わいでクセもなく美味。

傷みやすいためその日のうちに料理する。



シオテ (食)

キサケツバタケ

モエギタケ科の食用キノコ。4～10cm位の傘で柄につばがある。ひだは暗紫灰色。草地や芝生などに梅雨と秋に発生。海辺の公園などで良く見る。さわやかなよいだしが出て美味しい。



キサケツバタケ (食)

アメリカウラベニイロガワリ

イグチ科の食用キノコ。傘は径5～13.5cm、ピロード状。

梅雨～夏～秋、コナラやスダジイの多い尾根で見られる。傷つくと濃い青色に変わる。味、口あたり、歯切れ全て良い高級品。



アメリカウラベニイロガワリ (食)

オニイグチ

オニイグチ科の食用キノコ。傘は3～12cm。りん片がボツボツした手触りで、肉は傷つくと黒変する。痛みが早いので手早く料理する。舌ざわりや味はよく煮込み等によい。



オニイグチ (食)

ニガイグチモドキ

イグチ科の苦くて食べられないキノコ。傘は6～15cm。大型で美味なイグチの発生時期と重なる。料理に間違えて入れると苦くて台無しにされてしまう。孔口は白色のち淡紅色。肉はかむと強い苦味がある。ヤマドリタケ類と迷ったら噛んでたしかめることもできる。



ニガイグチモドキ (苦不)

佐野真吾が語る侍従会の思い出 ～幻のカワトンボを求めて～

2001年の5月の下旬、学生部隊長山田さんから一本の電話が入りました。「サノシン6月2日空いてる？ Uくん（トンボの専門家で山田さんの同級生。侍従会創設メンバーの一人でもある）が千葉に“幻のカワトンボ”を探しに行くんだって！一緒に行かない？」“幻のカワトン”ボって何だ！？ 当時中学2年になったばかりの私でしたが、ソクソクするようなワクワク感に満ち溢れました。

6月2日当日、私はUさんの車に同乗させていただき現地に向かいました。「Uさん？ 幻のカワトンボって何なんですか？」するとUさんもワクワクした顔で答えてくれました。「サノシンは“シロバネカワトンボ”って聞いたことある？ 普通のカワトンボってハネの色がオレンジ色だったり透明だったりするでしょ？ けどそのカワトンボは名前のとおりハネが真っ白なんだよ！ しかも世界で千葉県のほんの一部の川にだけ現れる超珍虫なんだよ！」「種類が違うんですか？」「種類は同じだよ！ その地域にだけ現れる特別な個体群なんだね！」そもそも、今から向かう場所は、“房総三角帯”と呼ばれる生物学的に独特な特徴を持った地域内にあたるそうで、当時私が最も憧れた幻のゲンゴロウ“シャープゲンゴロウモドキ”も生息している可能性が高い地域なんだとか！ 私はUさんの話しを聞きながら「幻の生き物ワールドなんだ！！」と勝手な妄想をしながらウキウキな気分で千葉に向かったのです。



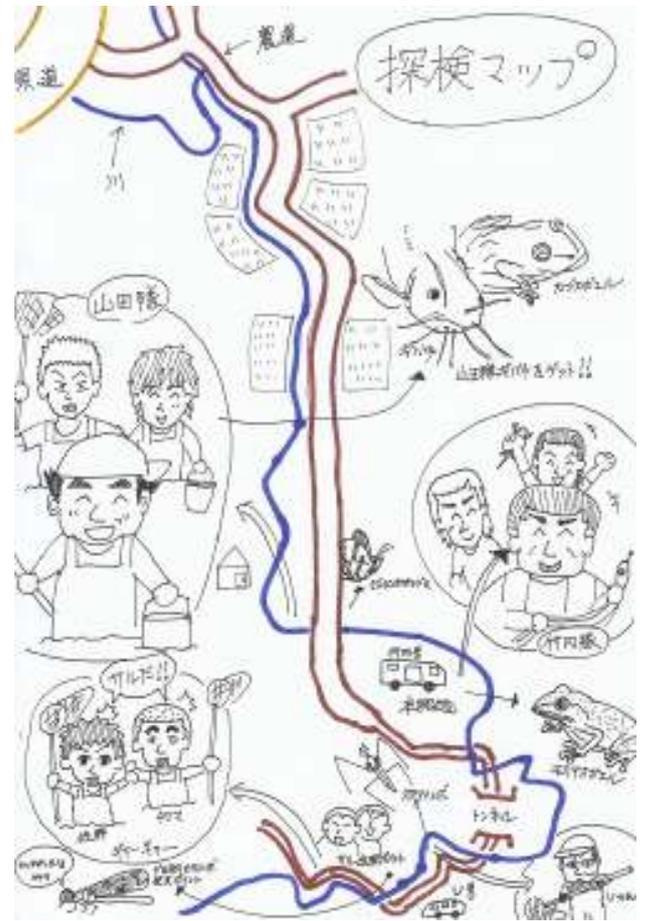
午前9時半頃、侍従会房総探検隊一向は現地に到着しました。脇道に入り、さらにそこから脇道に入り、車一台やっと通れるような道を行き、ようやく着いた沢は異様に神聖な場所に見えました。幻のカワトンボを探すには絶好のロケーションです。ここで山田さん、竹内さん率いる第一部隊の駐車地を本拠地とし、私とタクマ（同級生）はUさんの車に乗って、沢のさらに上流を目指すことになりました。そして、本拠地から5分ほど走った場所で車を停めて沢に入りました。沢に入ると無数のカワトンボとハンミョウが乱舞し、水面にはオオアメンボが泳ぎ回っていて、今にも幻のカワトンボが出てくるんじゃないか！ という雰囲気です。私とタクマは必死で幻のカワトンボを探しました。しかし、そう簡単にはみつかりません。そのうちUさんは一人で下流に向かって行ってしまったので、私とタクマはさらに上流を目指しました。10分ほど歩いたでしょうか。ギャーギャーとけたたましい動物の鳴き声が聞こえました。「サルだサルだよ佐野くん！ やばい逃げよう！」

タクマの叫び声で頭上をみると猿の群れが木の上から威嚇するようにこちらを向いて騒いでいました。私たちは急いで沢から上がりUさんが車を停めたポイントまで戻ることになりました。車に戻るとUさんはまだ戻って来ていません。この時点でタクマは疲れてリタイヤ。タクマを車に残して私は再び沢に下りることになりました。

それから10分くらい探したでしょうか。沢の水際で何か白いものが動いているのに気づきました。「何だ？」近づくと、水の中から白っぽい黄色いものが水の中から生えています。これはまさか！よく見るとそれは水中に潜って産卵するカワトンボのメスだったので。しかもそのハネはオレンジ色でもなく透明でもない、くすんだ白のような黄色のような色でした。「シロバネカワトンボだ！！」私は素手で捕獲して急いで沢を駆け上がりました。すると、ちょうどUさんが戻ってきたころでした。「Uさんとりました！シロバネ！」「ウソまじで！？」「…」私が採ったカワトンボをみたUさんは、少し黙った後、申し訳なさそうに言いました。「これはドロバネだね…（笑）泥がハネについてこんな色になってるんだよ。本当のシロバネはもっと全然白いんだよ。」数年後、この日の思い出をUさんはこう語ります。「あの時は、サノシンがあまりに嬉しそうな顔でドロバネを持ってきたから何て言おうか困ったよ（笑）」

こうして、結局幻のカワトンボはとれないまま終わりました。ちなみに、別動隊の山田隊や竹内隊は下流でギバチやモリアオガエルをとったようでしたが、やはりそちらでもシロバネカワトンボはとれなかったようです。この日はその後、シャープゲンゴロウモドキを探しに行きましたが、これもまた惨敗！憧れのシャープゲンゴロウモドキに執着し、ヒルに噛まれながらも裸足で湿地に入って網をふるう私を見て、面白く思った山田さんが、“シャープイモリ”（？）と“シャープクロゲンゴロウ”（？）をとり、さらには“シャープカップモドキ”（？）に足をつかまれたと豪語していました。

こうして侍従会一向は暗くなるまで虫とりをし、19時くらいにようやく帰路についたのでした。





虫のきょういく座談会 ～イモムシはお好きですか?～

参加者：山田・荒巻・松澤・東浦・成島・佐野

これは4月10日、侍従会のイベントである山菜パーティの後におこなわれた話である。

山田「俺ちょっと忘れ物取ってくるから先に“cocos”に入ってて！」

5人は先に“cocos”に入って山田氏を待つことにした。

佐野「座談会は山田さん来てからにしようか。今日のテーマは何にする？」

こうして雑談が始まり、話しはなぜか(?)イモムシの話へと発展した。

佐野「そういやあ、まっつん(松澤)はイモムシ嫌いだったよね？」

松澤「あれだけはダメだ!!気持ち悪すぎる！」

成島「えええー!?信じられない!!」

紹介が遅れたが、松澤氏は4年間、筆者佐野と学生時代を共にした仲間である。侍従会にも何度か参加しており、記憶に残っている会員の方もいるのではないだろうか。ちなみに前回の座談会にも登場した東浦氏も同様であるが、現在は大学院生として佐野同様に大学に在籍している。

松澤「以前佐野に「ちょっと持ってて?」とか言って、いきなり服にくっ付けられた時は失神しそうになったよ!持っててじゃねえよ!って!」

荒巻「気持ち悪いかなあ?メンガタスズメガの幼虫(蛾の1種)とかでかくてメチャクチャかっこよくない?」

ただ今マニアックな発言をした荒巻氏は、学生時代“ツチガエル”の研究をしていたそう。しかし本人は昆虫や骨格標本に強い興味があるらしい。山田氏・成島氏・佐野とは以前から親交があり、佐野も同じ年の“虫屋”仲間として彼を親しく思っていた。

松澤「あの足みたいなのを動かしながら這われるのがダメだ…」

荒巻・成島「えええー!?」

成島「それが可愛いんじゃない!!」

佐野「ちなみに二人(荒巻・成島)は何の種類のイモムシが好きなの?」

成島「キアゲハの幼虫!!」

荒巻・松澤「えええー！？」

松澤「一番気持ち悪いじゃん！あの色やばいよ！」

荒巻「俺もキアゲハはちょっと…嫌いじゃないけど…」

今日は「えええー！？」が連発する日である。ところで、何が「えええー！？」なのか？読者の皆さんの中には疑問に思われた方もいるのではないだろうか？同じく疑問に思い、頭の上にハテナマークを浮かべている東浦氏に佐野は気づいた。

佐野「いっくん（東浦）キアゲハの幼虫って見たことある？ オレンジと黒と緑が混ざったような、何とも言えない模様なんだよ。」

東浦「へえ～～」

成島「その変な模様が可愛いんじゃない！！ちなみにいっくんはイモムシ大丈夫？」

東浦「触れるし平気だよ！前に見たアカボシゴマダラ（外来の蝶）の幼虫が頭にツノがあって可愛かったな♪でもイモムシでも毛虫はちょっと苦手かも…」

佐野「それ分かるかも！ギフチョウの幼虫みたいに毒がないって分かってる毛虫ならいいけど、やっぱり毛虫って刺されそうなイメージあるよね…（笑）」

東浦「そうそう！！」

成島「まっつん（松澤）毛虫はどう？」

松澤「最悪！！もっとダメ！！」

佐野「苦手といえばさあ。イモムシはいいんだけど、臭い草を食べるイモムシの匂いが苦手だなあ。例えばカラスザンショウの葉を食べてるクロアゲハの幼虫の匂いとか。」

荒巻「ミカンの葉を食べてる幼虫より、カラスザンショウ食べてる幼虫の方が匂いは強烈だよな！でも“糞染”って言って、イモムシの糞を集めて染物をすると、ミカンの葉よりカラスザンショウの葉を食べてる幼虫の糞の方がいい色がでるんだよ！」

成島「何それ凄い！！やってみたい！！」

松澤「糞染め！？汚くないの？」

東浦「葉っぱ食べてるから汚くはないんじゃないの？」

松澤「なるほど確かに…」



佐野「今度、侍従会でもやりたいねえ！！」

その時であった。

山田「お待たせえ〜♪」

成島「山田さん！！今度侍従会で糞染をやりましょう！！」

山田「えっ！？ 何の話！？」

こうして、山田氏も到着し、とりあえずメニューを注文することにした。そして、お腹を満たし少し落ち着いたところで、改めて山田氏は言い放った。

山田「さて！今日の座談会のテーマは何にしようかあ！？」

一同「もう終わりました！！」

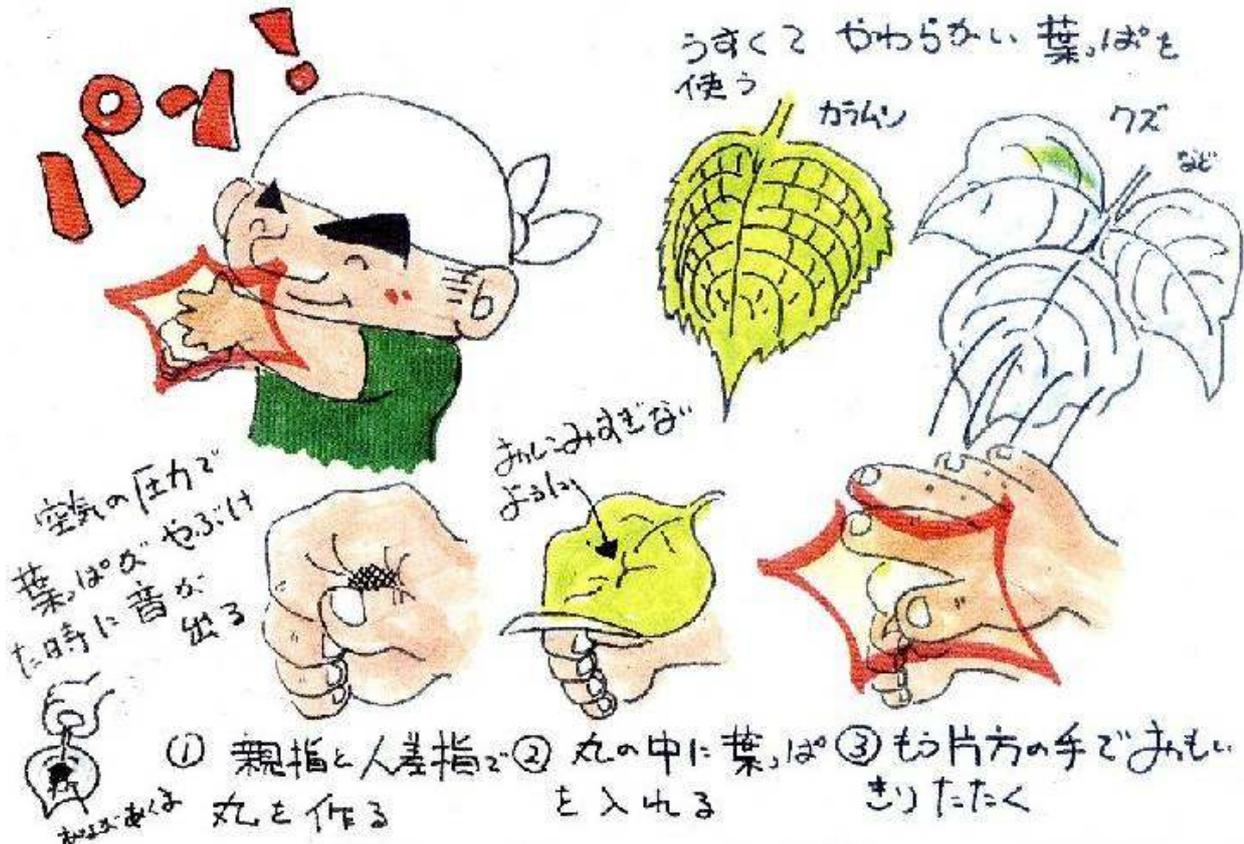
山田「えええー！！」

(おわり)

『森の遊び人・山田陽治の自然遊び講座』 第3回 葉っぱクラッカー

この時季は葉っぱがある程度の大きさになっていてもまだやわらかいので、葉っぱクラッカーをやりやすい。うまく鳴ると、とても大きな音がしてビックリ！

叩く手で空気を逃がさないようにして葉っぱを叩くのがコツ。



『モリソー・キッコロ森へいこうよ!』(NHK教育)土曜7:15~7:30 (再 木曜15:45~16:00) 放送 8/6 (再8/11)、8/13 (再8/18) に山田が登場します。

侍従川定例調査報告 学生部

5月17日（火） 晴れ

【第二山王橋～長島橋】（中流域）

生物：アユ（5～6cmぐらい）、コイ（産卵のため明戸橋にいた）、ウナギ（60cmぐらい）、メダカ、ボラ、ウキゴリ（稚魚）、チチブ、テナガエビ、モクスガニ、クロベンケイガニ、ハグロトンボ（幼虫）、コシボソヤンマ（幼虫）、カワニナ

備考：大道小学校侍従川清掃時の記録

侍従川フォトギャラリー



カワセミ
西澤博厚氏撮影

《実行委員長 廣瀬さんから》

侍従会の活動状況や侍従川の様子を紹介するツイッターのアカウントを作りました。出来るだけリアルタイムな情報を流して行こうと思っています。

侍従会のHPにリンクがあります。 <http://jijyukai.web.fc2.com/>

ふるさと大道村のツイッターもありますので、そちらもご覧ください。

<http://daidomura.web.fc2.com/>

事務局だより

事務局運営委員 長橋 輝明

◆6～8月の活動予定◆

- ☆6/18(土) 会員の集い
- ☆6/18(土),19(日) ホタル観察会
- ☆7/16(土) 侍従川大探検&生き物調査
- ☆7/24(日) 定例クリーンアップ
- ☆7/30(土),31(日) ジュニアキャンプ in 野島
- ☆8/6(土) いかだづくり
- ☆8/7(日) 侍従川 川くだり大会
- ☆8/13(土) 夏休み野外教室
※大道コミュニティ・ふるさと大道村との共催
- ☆8/28(日) 拡大クリーンアップ (予定)

★活動の詳細(持ち物など)は
ホームページをご覧ください。
<http://ji.jyukai.web.fc2.com/>



山田陽治

▲学生部の活動予定▲

- ◇ホタル調査 6/4から毎週水士18:45～20:30 大道中学校
※必ず保護者の了解を得てから参加してください。終了後は速やかに帰宅すること。
- ◇8/10(水)～12(金) 夏期合宿 in 愛川

侍従会は「2010年全労済地域貢献助成事業」の対象団体です。

■2011年度会費納入のお願い

前号に引き続きの今年度分の会費納入のお願いです。まだ手続きをされていない方は
お願いいたします。現金での支払いは間違いのもとになりますので必ず郵便局払込票
で支払ってください。

口座記号番号：00230-5-68634 加入者名：ふるさと侍従川に親しむ会
年会費：学生部・ジュニア1,500円 大人3,000円

ふるさと侍従川に親しむ会 事務局 長橋 輝明

《編集後記》 今回は、大道小卒業生のイラストレーター土屋美沙都さんが、2枚もイラストを書いてくださいました。ホンワカしていてとってもいい感じのイラストですね。今後は、尾上先生とのコラボ企画で益々パワーアップしていきたいと思っています。皆さんからのイラストや写真も随時受け付けています。(MK)